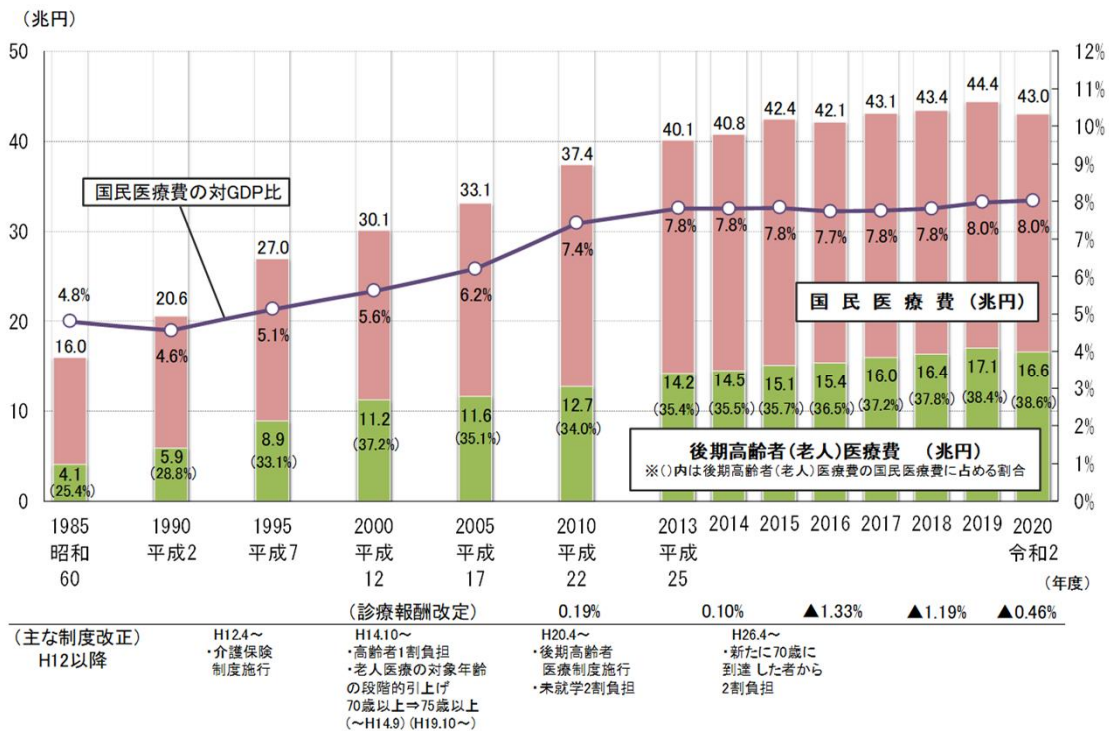


# 栃木県における医療費の状況等について

参考資料3-②

## 1 医療費の推移（全国）



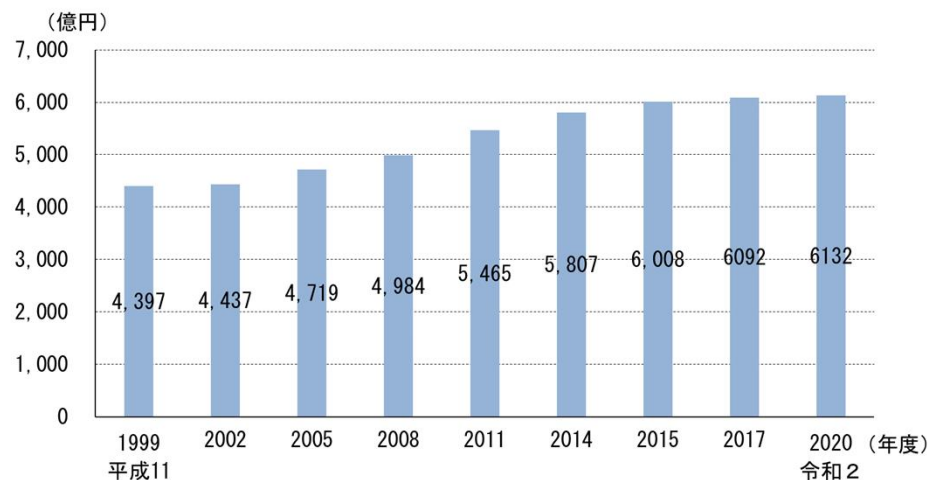
【資料：厚生労働省「国民医療費」及び「後期高齢者医療事業年報」】

## 2 国民医療費等の対前年伸び率

	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
国民医療費	6.1	4.5	4.5	▲1.8	3.2	3.9	2.2	1.9	3.8	▲0.5	2.2	0.8	2.3	▲3.2
後期高齢者医療費	12.7	6.6	9.2	▲5.1	0.6	5.9	3.6	2.1	4.4	1.6	4.2	2.5	3.8	▲2.9
GDP	7.2	8.6	2.7	1.4	0.8	1.5	2.7	2.1	3.3	0.8	2.0	0.1	0.2	▲3.9

【資料：厚生労働省「国民医療費」及び「後期高齢者医療事業年報」】

## 3 医療費の推移（栃木県）



【資料：厚生労働省「国民医療費」】

### 〈コメント〉

- ・医療費はコロナによる影響で令和2(2020)年は減少しているものの、全般的に増加傾向
- ・全医療費のうち後期高齢者医療費の占める割合は増加傾向にあり、40%に近づいている

#### 4 本県の一人当たり年間医療費

(入院、入院外、歯科及び調剤別) (令和2(2022)年度)

	本 県	全 国
一人当たり年間医療費	317千円 (40位)	341千円
うち医科入院	114千円 (40位)	129千円
うち医科入院外	117千円 (24位)	115千円
うち歯科	21千円 (38位)	24千円
うち調剤	55千円 (40位)	61千円

(注) ( ) 内は全国における順位。

【資料：厚生労働省「令和2年度国民医療費」】

#### 5 本県の一人当たり年間後期高齢者医療費

(入院、入院外、歯科及び調剤別) (令和2(2022)年度)

	本 県	全 国
一人当たり年間後期高齢者医療費	812千円 (40位)	917千円
うち入院医療費	381千円 (39位)	458千円
うち入院外医療費	393千円 (28位)	409千円
うち歯科医療費	26千円 (38位)	34千円

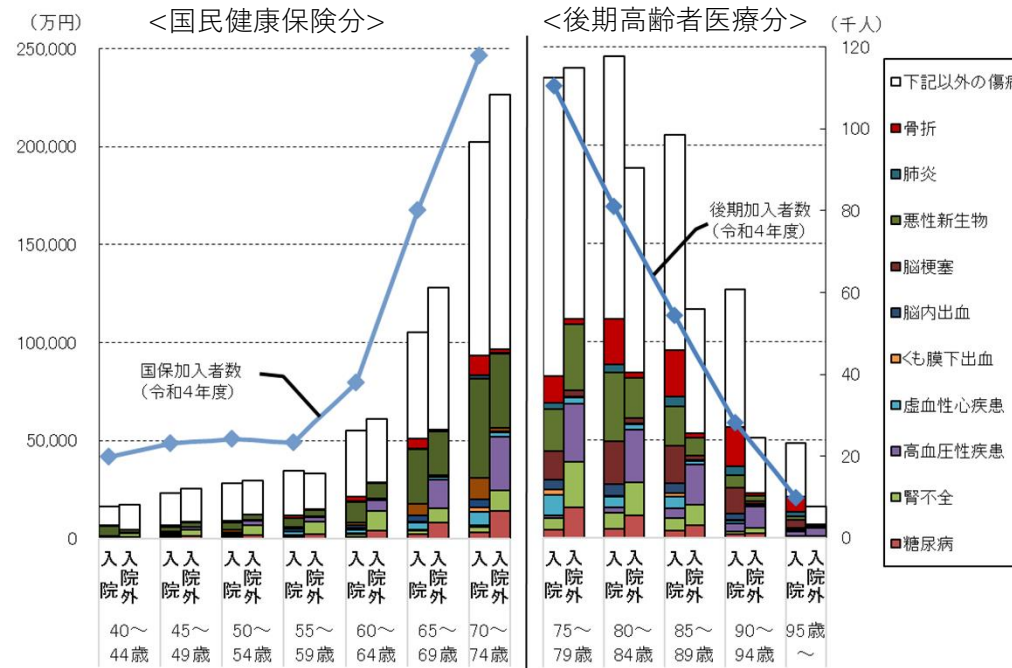
(注) 入院医療費には医科の入院時食事療養・生活療養費を、入院外医療費には調剤費を、歯科医療費には歯科の入院時食事療養・生活療養費を含む。

( ) 内は全国における順位。

【資料：厚生労働省「令和2年後期高齢者医療事業年報」】

#### 6 栃木県市町国保及び後期高齢者医療における

年齢階級別入院・入院外医療費 (令和4(2022)年6月審査分)

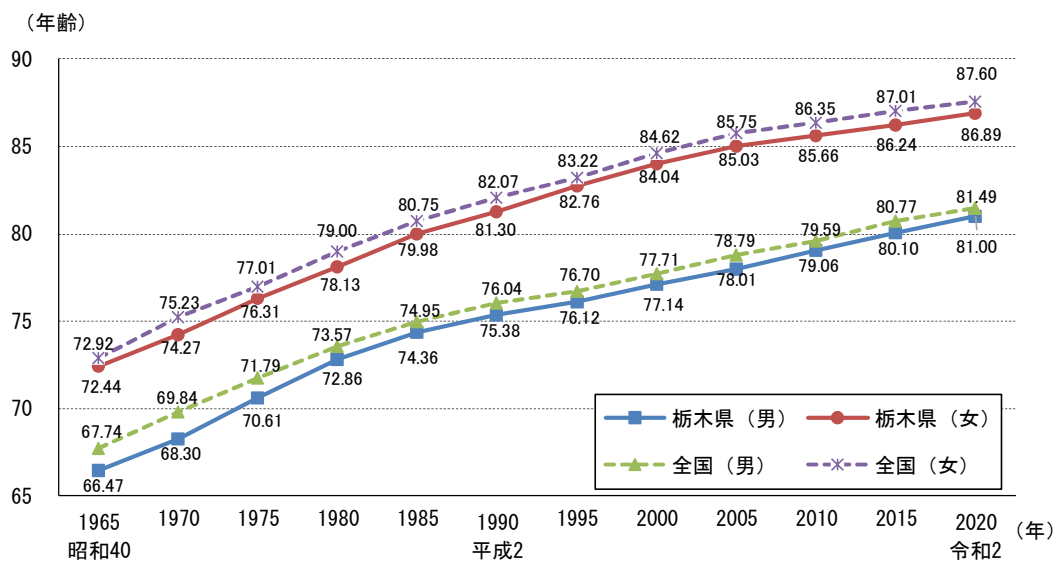


【資料：栃木県国民健康保険団体連合会「令和4年度国民健康保険疾病分類統計表・令和4年6月審査分」及び栃木県後期高齢者医療広域連合「令和4年度後期高齢者医療疾病分類統計表・令和4年6月審査分」に基づき栃木県作成】

#### 〈コメント〉

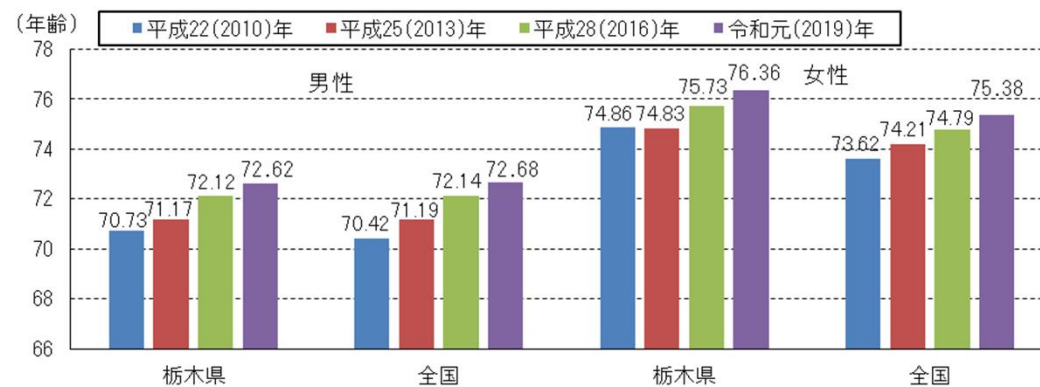
- ・本県の一人あたり医療費は医科入院外が全国値を上回っているがその他は後期高齢者医療も含め全国値より低い水準
- ・医療費の内訳では、60歳代を超えると徐々に増加、前期高齢者では入院、入院外ともに悪性新生物の割合が高く、後期高齢者では入院で脳血管疾患、骨折の占める割合が多くなる。また入院外では全ての年代で高血圧性疾患の割合も高い。

## 7 平均寿命の推移



【資料：厚生労働省「都道府県別生命表」】

## 8 健康寿命 (性別・栃木県・全国)

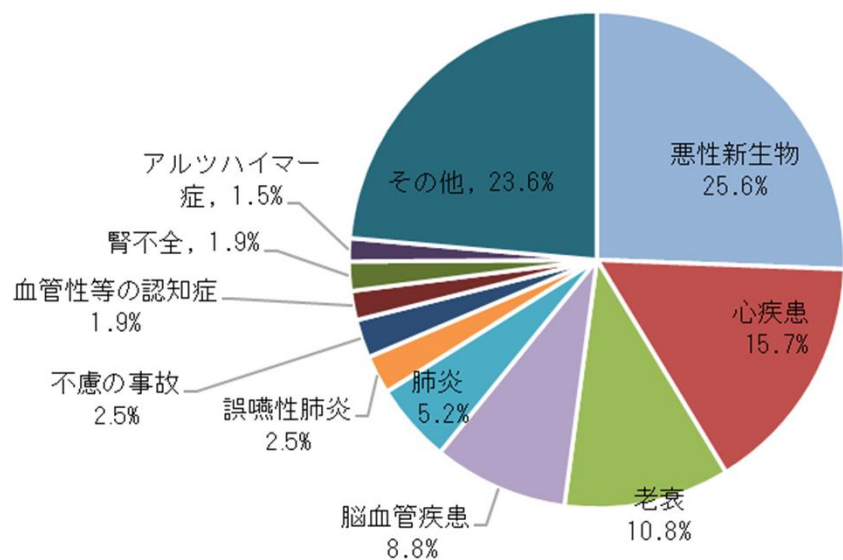


【資料：厚生労働科学研究「健康寿命及び地域差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究」  
「健康日本21（第二次）の総合評価と次期健康づくり運動に向けた研究」】

### 〈コメント〉

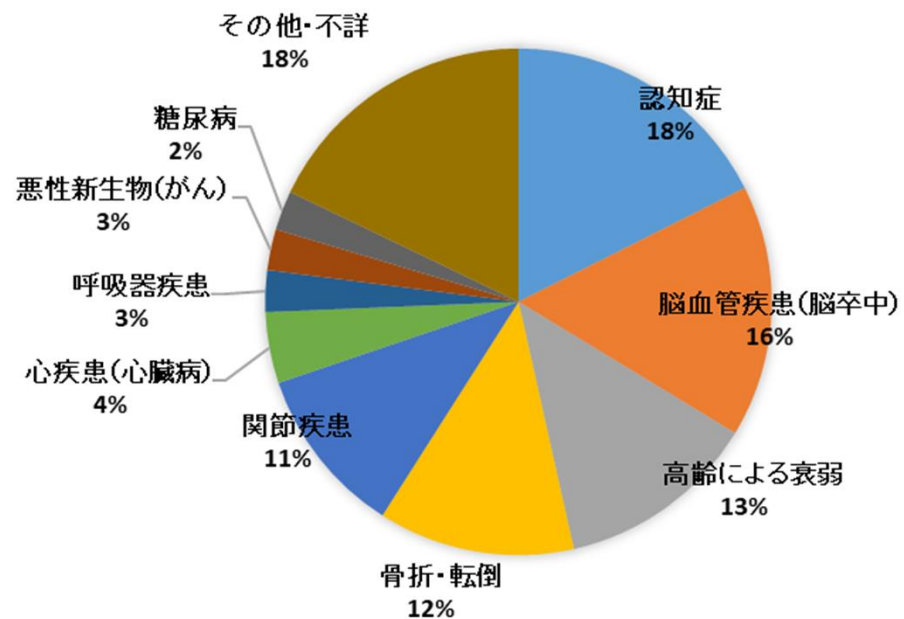
- ・令和2(2020)年における本県の平均寿命は、男性81.00歳、女性86.89歳でいずれも全国値を下回っている
- ・令和元(2019)年における本県の健康寿命は、男性72.62歳、女性76.36歳、女性は全国値を上回っている
- ・平均寿命と健康寿命の差は、男性8.38歳、女性10.53歳であり、健康長寿の延伸が課題である

9 本県における死因別死亡数の構成割合（令和3(2021)年）



【資料：厚生労働省「令和3年人口動態調査」】

10 介護が必要となった主な原因（令和元(2019)年度）



【資料：厚生労働省「令和元年度国民生活基礎調査（介護票）」】

〈コメント〉

- ・本県の死亡者数は22,712名でその死因は死亡者全体の25.6%が悪性新生物、次いで心疾患、老衰、脳血管疾患の順に多い
- ・一方介護が必要となる原因疾患で最も多いのは認知症で18%、次いで脳血管疾患、高齢による衰弱、骨折・転倒の順に多い